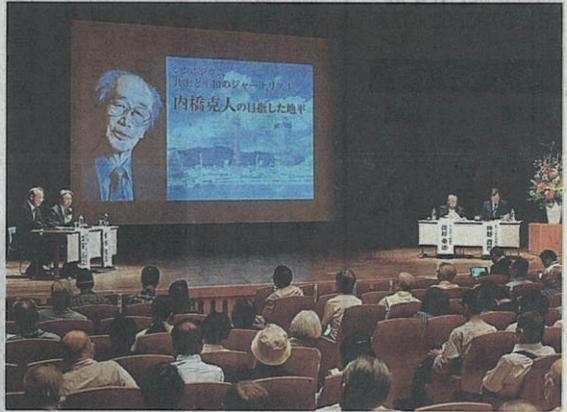


内橋克人氏の功績顕彰

親交あった言論人ら 神戸でシンポ



内橋克人氏の人柄と思想を語り合ったシンポジウム＝4日午後、神戸新聞松方ホール

経済評論家・ジャーナリスト内橋克人氏の功績を顕彰するシンポジウム「共生と平和のジャーナリスト・内橋克人の目指した地平」（神戸新聞社主催）が4日、神戸ハーバーランドの神戸新聞松方ホールで開かれた。親交があった言論人が、

「人間の幸せを中心に据えた経済」を説いた同氏の人と思想を語り合った。同氏は1932年、神戸市須磨区生まれ。神戸商科大（現兵庫県立大）を卒業し、神戸新聞経済部記者を経て独立した。「匠の時代」「共生の大地」など多数の

著書を残し、2021年9月、89歳で死去した。

基調講演に立った元NHKキャスターの国谷裕子氏は「効率至上主義が跋扈し、人間さえも非効率的として切り捨てられかねない今、おもねらず、ひるまず新しい経済を問いつ続けた内橋さんを思い起こさなければならぬ」と語った。

後半は東京大名教授の神野直彦氏ら3人が登壇した。神野氏は「内橋さんは人間の幸福とは何かという根源的な問いを発し続け、時代に異議を申し立てていた。最も弱い立場の人の視点に立たなければ、この社会の真実は見極められないと考えていた」と述べた。

（森本尚樹）

（2025年10月5日付け 神戸新聞より）